

令和2年度

第19回

# 玉城町社会福祉大会

とき 令和3年2月11日（木・祝）

ところ 玉城町保健福祉会館  
ふれあいホール

主催 玉城町社会福祉協議会  
共催 玉城町教育委員会  
後援 玉 城 町

## 式典プログラム

10:00

- (1) 開会のことば
- (2) 来賓祝辞、祝電披露
- (3) 顕彰
- (4) 福祉の標語表彰
- (5) 福祉の作文表彰



**今年度の社会福祉大会は玉城町社協の  
Youtube チャンネルで公開予定です。  
チャンネル登録をしてお待ちください。**

玉城町社協  
YouTube チャンネル



# 被表彰者

(敬称略)

## ◆社会福祉協議会会長表彰

- ・ 社会福祉施設役職員 くぼ ともみ  
久保 知美 (身障者就労センター 上々)  
障害当事者が安心して参加できるよう永年継続して支援した。
- ・ 社会福祉施設役職員 にしの ちづる  
西野 千鶴 (社会福祉法人 弘樹苑)  
社会福祉法人司会が運営する介護老人保健施設弘樹苑の開所に先立ち、平成8年10月の設立準備期間中から勤務し、24年間介護士として従事、現場第一主義で実務一筋を貫き、特にリハビリテーションに注目、介護老人保健施設の目的である在宅復帰にちからを注ぐと共に、レクリエーションを通じて利用者に笑いと活力を注ぎ、社会福祉施設の向上、発展に貢献する。  
また、地域を愛し、地域の行事にも積極的に参加、玉城町女性消防団にも所属した経歴を持ち、防災や救急救命の啓発、地域交流の中心的役割を担い、永年にわたって地域福祉、高齢者福祉に貢献した。
- ・ 民生委員活動 こばやし たかお  
小林 多賀男 (民生委員)  
永年、民生委員として地域に根差した活動をされてきた。また、ボランティア活動にも積極的に参加され、地域住民と共に福祉のまちづくりを推進し、自ら地域の見守りを継続している。

## ◆感謝表彰

- ・ 寄 附 京セラドキュメントソリューションズ  
株式会社 玉城工場  
永年にわたり、寄付活動をしていただき、地域福祉事業へ貢献した。
- ・ 活動協力 喫茶 白ゆり  
永年にわたり、保健福祉会館内の喫茶白ゆりにて町民の憩いの場づくりに貢献した。
- ・ 活動協力 みずたに かずえ  
水谷 和枝  
永年「あいさつ運動」に休まず参加し、あいさつを通じ地域福祉活動に貢献した。また、障害当事者として積極的に小学生とふれあい、田丸小学校をはじめ、かかわる子供たちへ幼少期からの障害福祉の醸成に貢献した。
- ・ 民生委員活動 民生委員児童委員協議会  
コロナウイルス禍において、手作りマスク等を高齢者に配布し、地域の見守りを絶やさず活動した。
- ・ ボランティア活動 絵手紙サークル ゆずりは会  
永年にわたり、絵手紙を通じボランティア活動を継続し、高齢者の見守りにも貢献した。今年度の社会福祉大会の記念品の作成にも貢献した。

# 福祉の標語

(敬称略)

## 大賞

小学生の部	有田小学校	3年	<small>かわい</small> 川井	<small>ゆの</small> 柚乃
中学生の部	玉城中学校	3年	<small>おかだ</small> 岡田	<small>さわ</small> 紗和
大人の部			<small>しもむら</small> 下村	<small>けんのすけ</small> 謙之助

## 元気ですたまき委員会賞

小学生の部	田丸小学校	5年	<small>なかざと</small> 中里	<small>もえ</small> 萌愛
中学生の部	玉城中学校	3年	<small>むらき</small> 村木	<small>しゅん</small> 駿
大人の部			<small>おくむら</small> 奥村	<small>としみ</small> 敏美

## 青少年を育てる会賞

小学生の部	外城田小学校	3年	<small>もりなが</small> 森永	<small>えいた</small> 瑛太
中学生の部	玉城中学校	3年	<small>ほりえ</small> 堀江	<small>るり</small> 琉凜
大人の部			<small>ふじた</small> 藤田	<small>まさし</small> 正司

## 健康しあわせ委員会賞

小学生の部	下外城田小学校	5年	<small>ゆあさ</small> 湯浅	<small>ゆかこ</small> 由香子
中学生の部	玉城中学校	1年	<small>こばやし</small> 小林	<small>なるき</small> 育樹
大人の部			<small>きそう</small> 喜早	<small>いさお</small> 功

※元気ですたまき委員会とは・・・

町社会福祉協議会が設置する地域福祉を推進する委員会です。

※青少年を育てる会とは・・・

次代の郷土を担う青少年の健全育成を図ることを目的とする団体です。

※健康しあわせ委員会とは・・・

町保健福祉課が設置する町民への健康づくりを啓発する委員会です。

# 福祉の作文

(敬称略)

## 特選

小学生の部	<u>有田小学校</u>	<u>5年生</u>	<u>木内 翔大</u>
中学生の部	<u>玉城中学校</u>	<u>3年生</u>	<u>赤松 蒼彩</u>

## 入選

### 小学生の部

<u>田丸小学校</u>	<u>4年生</u>	<u>沓掛 佑紀</u>
<u>外城田小学校</u>	<u>6年生</u>	<u>西川 論</u>
<u>有田小学校</u>	<u>5年生</u>	<u>西井 琉偉</u>
<u>下外城田小学校</u>	<u>4年生</u>	<u>喜多 幸駕</u>

### 中学生の部

<u>玉城中学校</u>	<u>3年生</u>	<u>横川 心美</u>
--------------	------------	--------------



社会福祉法人**玉城町社会福祉協議会**  
〒519-0433 度会郡玉城町勝田 4876 番地 1  
TEL0596-58-6915 FAX0596-58-6916

日本赤十字社募金交付金事業

令和2年度 第19回  
玉城町社会福祉大会

# 福祉の作文・標語集



玉城町社会福祉協議会

# 目次

## 福祉の作文



### 特選

《小学生の部》

自分のくふう

《中学生の部》

私のおばあちゃん

有田小学校

五年

木内

翔大

1

玉城中学

三年

赤松

蒼彩

2



### 入選

《小学生の部》

大好きな社協のバス

田丸小学

四年

沓掛

佑紀

4

玉城町の幸福論

外城田小学

六年

西川

論

5

あの段差

有田小学校

五年

西井

琉偉

6

ひいばあちゃん

下外城田小学

四年

喜多

幸駕

7

《中学生の部》

少しずつ減らしていくために…

玉城中学

三年

横川

心美

8

## 福祉の標語



# 福祉の作文



## 特選

### 『自分のくふう』

有田小学校 五年 木内 翔大

ぼくが、おばあちゃんといっしょに出かけたときのことです。おばあちゃんは、ふだん足がわるいのでつえをつきながら、歩いています。お父さんの車は大きいので、おばあちゃんは座席に上がりにくそうにしています。こまった顔をしていました。それを見たお父さんが、動きました。お父さんは車の後ろから、小さいきやたつをとり出しました。それをおばあちゃんの足元におきました。おばあちゃんはその小さいきやたつに足をのせて、安心したように、座席に上がっていました。こまった顔をしていたおばあちゃんの顔はうれしそうに顔が変わっていました。おばあちゃんにつづいて、ぼくもきやたつにのぼって車にのってみました。すぐく上がりやすかったです。そのとき「お父さんはだれもが車にのりやすいように、自分なりにくふうをしています。おばあちゃんにのりやすかったです。それから、出かけた先で、またおばあちゃんが車のろうとしました。こまった顔をしていたのでぼくも、お父さんのように、おばあちゃんの足元に小さい

きやたつをおきました。すると、おばあちゃんは安心したように上がっていました。そして、ぼくに「ありがとう。」といってくれました。そういわれると、うれしくなりました。ぼくおばあちゃんにしたように、だれかが、こまっていたら今度は、家族だけじゃなく、知らない人でも、お父さんがしていたように自分なりにくふうをして手助けしてみたいなと思いました。

そして、じっさいにこまっていそうな人を見かけたことがあります。その人は、にもつがあつてそれを、すぐおもたそうにもっていました。ぼくは、手伝ってあげようかなと思いました。だけど、「仕事の物やたらあかんのかな。」とか「おとしちゃったらどうしよう。」などいろんな気持ちがかみ上げてきました。そして、けっきよく手伝うことはできませんでした。そんなことが続いて、こまっている人がいても手伝えなくなっていきました。でもぼくの心はもやもやしていました。そんなとき、ふと考えました。「もっとかんたんに、された人が、元気になる。元気にくらせるようになるほうほうはないかな。」と考えました。そして、できたのは、「あいさつ」でした。ある日学校の帰り道に犬をさんぽしている女の人がいきました。その女の人にぼくは、

「こんにちは。」  
「いいました。そうすると、その女の人はいっこりした顔で、  
「おかえり。」

といいました。そういわれたしゅんかんに、ちよつと元気ができました。ぼくは、この体験をいかして、いろんな人にあいさつ

をすることにしました。学校の帰り道はもちろん、散歩している大人の人、きんじよの人、お店では、「ありがとうございます。」「お願いします。」いろいろなあいさつができるようになりました。ぼくは今、思います。「自分ができる事をやっていく。」このことがお父さんがしていた、「自分なりのくふう」というものなんだろうかと。



## 特 選

### 『私のおばあちゃん』

玉城中学校 三年 赤松 蒼彩

私のおばあちゃんは津市の老人ホームにいます。なぜなら、認知症と心臓の病気をわずらってしまつたからです。私のおじいちゃんは4年ほど前家で倒れ、ねたきり状態で、私たち家族のことも忘れてしまいました。おじいちゃんが倒れてから、おばあちゃんは話す相手もおらず、外にもあまり出ず、ずっと何もしないで家にいたそうです。たまにたばこを買おうと歩いて出かけると、自分の家がどこか分からなくなつたりしていたこともありました。買い物に行くと、何を買つたらいいのかを忘れ、何個も同じものを買つてしまつたようです。そんなこともあるのに、おばあちゃんは病院嫌いで病院に行きませんでした。そして悪化し、老人ホームに入ることになりました。私はおばあちゃんが認知症になつたと聞いた時はとてもショックでした。「いつか自分のことも忘れられてしまうんじゃないか」と心配になりました。私は認知症についてスマホで調べてみました。何か私にもできることがあるのではないかと思つたからです。すると、こんな記事がでてきました。『認知症の高齢者をねらつ

た犯罪』です。認知症の人は、悪化してしまうと、良い事と悪い事の違いが分からなくなったりするなどといったことになってしまいます。つまりだまされたりしやすいということです。「この人は認知症だからすぐだませる」と思っている人たちがオレオレさぎなどのお金をぬすんだり、物などをぬすんだりしているようなのです。実際に私のおばあちゃんも、「物をぬすまれた」と言っていたことがあります。私は驚きました。そんなことをするバカな人が本当にいるのだと思いました。他にも色々調べると、認知症の人が差別されているということもありました。「この人は認知症だから」や、「何をしてもわからないだろう」や「認知症の人は障害者」などがありました。私はあまりにはひどいと思いました。意味が全く分かりませんでした。なぜ認知症の人をそのように悪くきめつけているのが疑問でしかたありませんでした。逆に認知症になっっているんだから助けあげたりしなければいけないのではないかと私は思いました。認知症だからすぐどうせ忘れてしまう。めんどくさい。」ではなく、優しく話してあげて、もし違うことをしていたらちゃんと怒っておしえてあげるなどのことをしてあげた方がいいと思います。こんな差別をなくしていきたいです。

私はこの認知症のことをたくさん調べて、とても大変な病気であることを知りました。それに、身近な人であるおばあちゃんまでがなってしまうと、私のことを忘れられたら嫌という不安な気持ちや、心配な気持ちでいっぱいになってしまうことを身をもって知ることができました。また、高齢者の方や認知症

になってしまった方への犯罪であるさぎや、「認知症だから」といったような差別などのことはとてもひどいことだと思いました。まだ中学生の私にはできることなんて本当に少ないと思うし、役に立てるのかどうかも全然分らないけど、できる限りの力でサポートしていきたいと思います。私は将来、福祉系の仕事につきたいなと思っています。なので、もつと福祉の勉強をして高齢者の方や、障害をもっている方、そして私のおばあちゃんのような認知症の方などを助けたりしてあげて、差別や犯罪もなくなっていけばいいなと思います。三月一日に一年ぶりに会った時、私の名前と顔が一致してなかったおばあちゃんだけ、温かい気持ちでサポートをしていけたらいいなと思っています。



## 入 選

### 『大好きな社協のバス』

田丸小学校 四年 杓掛 佑紀

ぼくは、社会福祉協議会のバスが大好きです。

バスは、元気バスや福祉バスがあります。

ぼくは、小さい時から、バスに乗せてもらっていました。バスはいつもきれいで、運転手さんも親切だから、今も乗せてもらうのがいつも楽しみです。

今年の二月ごろに、お母さんとスーパーに行ったら、社協のちゅう車場でしょく員さんが、大きいバスを、せん車しているのを見えました。寒いのに、つめたい水で大きなバスをあらうのは、大変だと思いました。ぼくは、お手伝いしたくなって、しょく員さんの所に行って、してもいいか聞きました。

そして、まどをふいたり、水をかけたりしました。倉庫にそうじ道具がいろいろ入っていて、それを使ってしょく員さんがバスの外もきれいにすると、ピカピカになりました。

こんなふうにあらったりふいたり、そうじしたりしてくれているから、いつもバスがきれいなんだと思いました。社協のバスがもっと好きになりました。

ぼくのおじいちゃんも、バスの運転ができます。おじいちゃん

んもしょく員さんも、こんなに大きいバスが運転できるから、すごいなーと思います。ハンドルは、ぼくのお母さんの車より、すごく大きかったです。

ぼくはまだ車の運転ができないし、年をとって運転出来なくなつたおじいさんやおばあさんがたくさんいると思います。子どももお年よりも乗せてもらえるバスが、玉城町にあつて、うれしいです。

工夫がたくさんあつて、足をあまり上げなくても乗れるし、バスを待つ所にはベンチがあつてすわれるし、運転手さんは親切で安全運転してくれるから、安心して乗れます。

新がたコロナウイルス対さくもしてあつて、とう明なビニールシートがはつてあつたり、消毒薬がおいてあつたり、かん気もしてくれました。みんなの命を守ってくれていると思います。早く新がたコロナウイルスがおさまってほしいです。

これからも、たくさんバスに乗せてもらいたいです。また、バスのせん車やそうじのお手伝いをしたいです。



## 入 選

### 『玉城町の幸福論』

外城田小学校 六年 西川 論

私は、国語の学習で「町の幸福論」という教材を学習しました。その中で、「豊かな未来」ということを考えました。私が思えば、「豊かな未来」とは、社会の中の至るところにある物などが栄え、より楽しく明るくなっていく幸せな未来です。

しかし、筆者は「人と人とのつながり」が大切だと述べています。筆者が重要だと考えているは、「コミュニティデザイン」という考えだそうです。私もこのコミュニティデザインという考え方でどうやったら玉城町が誰でも幸せに暮らすことができる町になるのか考えました。

私は、玉城町の子どもたちや高齢者が幸せに生きていくことができる町にしたいと思います。現在の玉城町では、人が集まる場所はあるけれど、人の交流がまだまだ少ないように感じます。

その課題を解決するために私は、保健福祉会館で高齢者と子どもたちが色々な物を作ったり、いっしょに遊んだり、高齢者との交流を深めるといいと思います。昨々は色々な色の砂と色々な形と色の貝がらなどをビンに入れてキャンドルを作り

ました。そのときは、色々な色の砂を同じくらいに盛るのが難しかったので近くにいた高齢の職員さんといっしょに完成させました。

昨年も何を作るか楽しみにしていましたが、コロナウイルスの影響でなくなりました。高齢者といっしょに何かを作る機会も交流もなくなってしまうので、だから、コロナウイルスがおさまったら高齢者との交流を増やしてほしいと思います。

行うことは、子どもでも高齢者でも楽しめるものだと思います。ルールが簡単だったり、楽に楽しめたりできるものと高齢者も楽しく遊ぶことができます。例えばトランプやぼうずめくり、双六などの室内遊びだと高齢者も子供も遊べて、交流が深まると思います。また、子どもが高齢者に遊び方などを教えることだけでも交流を深めることもできます。そうすることで、子供たちと高齢者がつながり、老若男女問わずに「豊かな未来」の中で幸せに暮らすことができると私は思います。

このように、玉城町には高齢者と子どもたちの交流がなくなっていく、つながりも少なくなってきたり、いかにもわかりませんが、つかしいから、面倒臭いからと子供たちが主体的に取り組みなくなれば、玉城町に「豊かな未来」は生まれなないと思います。子どもたちが、主体的に取り組めば人と人とのつながりを継続することができ、「豊かな未来」も生み出すことができると言えるでしょう。



## 入 選

### 『あの段差』

有田小学校 五年 西井 琉偉

ぼくは、たまにおばあちゃんの家に行くことがあります。去年、いつもどおりおばあちゃんの家の中をぶらぶらと歩いていました。歩いているとちゅう、ドアを開けてすすもうとしました。その時、ドアの段差に足をぶつけてしまいました。いたくてたまりませんでした。でも、おばあちゃんの家には、リビンクに行くドアが、もう一つあります。そのドアの下には、銀色の段差カバーのようなものがありました。おばあちゃんにそのカバーのことをきくと、

「これはね、この家にはお客さんがくるから、車いすの人が来たらあの段差があつたらこまるやろ。車いすの人でも通れるようにしてあるんさ。るいちゃんがこけたドアは、しょうがいや、病気がない人がとおれるドア。銀色のカバーがついてあるドアは、みんなが通れるドアだよ。」といいました。

ぼくは、おばあちゃんの話聞いて思い出しました。以前、ニュースで車いすの人がどうやってせいかつしているかみてみようというきかくでやっていました。車いすの人の生活の様子を見ていました。その人は、アプリをつかっていました。トイ

レの位置や店の名前が地図にずらりと書いてありました。そのマップにかいているものは、すべて車いすの人がいけるところでした。その車いすの人がこう話をしました。

「前まではね、このアプリがなければ、かいだんをのぼって入る店が多いから、そういう店は、一人で入るのはむずかしいから、いつも、店をさがしていつかれるのよー。」

それを見て、ぼくは、

「そうか、そんなにくろうしている人がいるんだ」と気づきました。そういえば、学校にも、かいだんと横にちよつとしたさかがあつて車いすの人がとおれるようになっていました。

ぼくは、学校でバリアフリーやユニバーサルデザインのことについて学びました。その中で、しょうがいのある人やそうでない人も安心してくらせる「だれもが生きやすい町」にするために、自分だったら、何ができるかを考えました。ぼくは、せいりせいとんをし、くらししていくかんきょうを整えていきたいと思いました。たとえば、通学路にじやまなゴミがあつたらひろつて、すてたいと思います。学校のろう下では、みんなが通れるようにせいとんしていききたいと思いました。そうすることによって、しょうがいがあるのかかわらずみんなが笑顔になれると思います。みんなの笑顔がふえれば、明るくて「だれもが生きやすい町」になっていくことができると思います。小さなことからでも、少しずつやっていきたいと思えます。





## 入 選

### 『ひいばあちゃん』

下外城田小学校 四年 喜多 幸駕

今から、五年前ぼくのひいばあちゃんが、なくなってしまうしました。ひいばあちゃんがなくなる前、おじいちゃんと、おばあちゃんと、お父さんと、お母さんが仕事がない時はお母さんもいっしょに、ひいばあちゃんがいるしせつに行きました。しせつに行くと、ひいばあちゃんは、いつもぼくたちが来る前にしせつのげんかんで待っていました。ひいばあちゃんは、目が見えなかったので、ぼくをさわって

「大きくなったなあ」

と言ってぼくの頭をなでてくれました。ぼくはしせつの中で、ひいばあちゃんの車いすをおしてあげたり、お話をしてもらったり、お話をしあげたりしました。たまにしせつから、家に來ることがあるのでその時は、ひいばあちゃんの部屋でいっしょにねたこともありました。本当はひいばあちゃんと外で遊びたかったけど、目がみえなかったので、ひいばあちゃんにできることは、話ぐらいだったので、いつもお話をひいばあちゃんとしていました。ぼくは、

「いつかひいばあちゃんと遊べたらいいのになあ。」

とぼくは思いました。その時は小さかったので、ひいばあちゃん目は開けたまま目が見えないと言っていたので僕は、「本当は見えとるんやろ。」

と思いましたが。ぼくとひいばあちゃんが話をしている時なぜか、お父さんたちはひいばあちゃんのことを目をはなさずに見ていました。ひいばあちゃんは目が見えないのがすごくいやだったのか、

「死にたい、死にたい。」

と言っていました。しせつでは、ひいばあちゃんを車いすをおしてトイレに行つてあげたりして、ひいばあちゃんのめんどろをみてあげるのが大変でした。いつかぼくは、人がこまっていたら助けてあげられるようになりたいです。たとえば転んでしまった人がいたら、近くの人に知らせるか、学校だったら保健室につれていくということができるようになりたいです。



## 入 選

### 『少しずつ減らしていくために…』

玉城中学校 三年 横川 心美

私は高齢者の孤独死について書きます。私の団地にはたくさんの高齢者の方がくらしています。その中で実際に私が身近で体験し、思ったことや考えたことを書きます。

私のとりの家では、八十後半くらいのおばあちゃんが暮らしていました。そのおばあちゃんは早くに旦那さんを亡くし、一人で暮らしていました。私がまだ小さい頃よくおばあちゃんは、野菜や果物をくれました。よく会うのでたくさん会話もしました。でも、私が大きくなるにつれておばあちゃんは、耳が遠くなり見かけることはあつて「こんにちは。」と言つても聞かなくなり会話が難しくなりました。けど、おばあちゃんがわたしのことを見つけてくれてほほえんでくれたり話しかけてくれたりすることもありました。私が部活から帰ると「おかえり。」と言つてくれることもあり、それがとても嬉しかったことも覚えていきます。でも一人暮らしということもあり、けがをしても助けてくれる人は当然いません。おばあちゃんが私の家に回覧板を届けに来てくれたとき、手にタオルをまいて、「ばんそうこう一枚くれへん?。」と言つたのでお母さんと呼んでばんそうこ

うをもらいました。でもおばあちゃんはそれ以上にけがをしていました。すぐお母さんが消毒をしたりしました。だんだんとおばあちゃんを見かけることも少なくなり、ある日の夕方おばあちゃんの家にはパトカーが止まっています。私は何かあったのかと思ってお母さんに聞くと、「おばあちゃん一人で亡くなったたんやつて。」と伝えられました。私は、とても悲しくなりました。他の人からすればただただとなりの人が亡くなっただけかもしれませんが私にとっては、小さい頃から見守つてくれた大切な人でもありました。一人で亡くなると警察がくるということを母に教わりました。昼には救急車も来ていたそうです。でも、見つけたときにはもう遅かったそうです。もし、家族と一緒に住んでいればもう少しでも長生きできたかもしれません。それは私にもわかりませんが、一人で亡くなっていたことにおどろきました。

私はこれをきっかけに考えたことがあります。皆さんもきつと身近に高齢者の方がいると思います。近くのおじいちゃんやおばあちゃん、もちろん自分の祖父母もです。あなたの身近に一人暮らししている人はいませんか。もしいたとしたら、時々見かけたときに声をかけてあげてほしいと思います。それだけで全然ちがうと思うし少しでも元気になってくれたらいいと思います。私はこの体験をしてから、今まで以上に高齢者の方たちにあいさつだけでもしようと思えました。若い人たちは時々高齢者を差別することがあります。なんとなくさけているだけであつても相手にとつてとても嫌な気持ちになることがあります。



す。もし自分がおじいちゃんおばあちゃんになったとき、若い人からさけられたりしたら嫌だと思いませんか。私はとても嫌な気持ちになると思うし、きつとみんなもそうだと思います。だから今はどんな人にも平等に話しかけ、会話してほしいと思います。そうしてどんどん高齢者の孤独死、そして差別がこの世からなくなればいいと考えています。私はもちろんだけど、みんなの協力しただい結果は大きく変わってくると思います。だから、この作文で言ったように、少しずつみんなでなくしていききたいです。私はこれからも後々後悔しないように、笑顔ではなしたり、自分からあいさつしたりしようと思います。



大賞

《小学生の部》

またあした 言えるしあわせ 大切に

・・・有田小学校三年 川井 柚乃

じいちゃんと大切な犬がなくなったら言えなくなってしまつてかなしい。  
今いるみんなにいえるしあわせを大切にしたい。

《中学生の部》

あいさつで 笑顔あふれる 町づくり

・・・玉城中学校三年 岡田 紗和

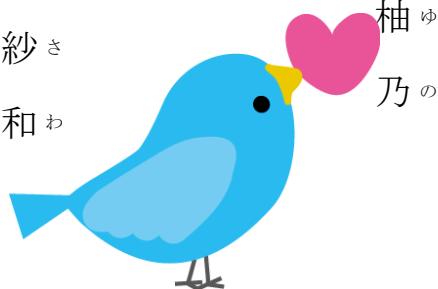
一人一人があいさつを心がけてすることで笑顔が増えて活気あふれ、明るい町を作ることができるきっかけになる  
と思ひました。


《大人の部》

あいさつは 住みよい社会の 潤滑油

・・・下村 謙之助

町内で人に会つても無言のまままで通り過ぎては「隣は何をする人ぞ」式に仲間意識がうすれ、いざというときにも助け合いがなくなる。



 元気ですたまき委員会賞

《小学生の部》

元気です！あいさついっぱい玉城町

・・・田丸小学校五年 中里 萌愛

地域の人とあいさつをすると今日もがんばろうと元気や笑顔があふれてくるから玉城町全体に広がってほしいです。

《中学生の部》

あいさつは 元気と笑顔の 合言葉

・・・玉城中学校三年 村木 駿

あいさつをすれば笑顔になれるし、元気も出るから。

《大人の部》

あいさつで 会話生み出す 玉城町

・・・奥村 敏美

老いも若きも一言の挨拶から。年の差を越えた会話が生まれ、お互いに思いやる気持ちが生まれ、大切な命の尊さを  
知り使命が生まれ、自ずと住みよい町づくりが生まれる。たかが「あいさつ」されど「あいさつ」。町内に思いやりと  
支えあう人々の輪が広がる。こんな町が好き。こんな玉城町が好き。





# 青少年を育てる会賞

## 《小学生の部》

マスクをしていても大きな声であいさつ！

・・・外城田小学校三年

森

永

瑛

太

マスクをつけて学校に行くことになったけど、あいさつは大きな声でした方が、うれしいからです。

## 《中学生の部》

あいさつひとつで笑顔ふたつ

・・・玉城中学校三年

堀

江

琉

稟

誰かが誰かに「おはよう」ということで、相手が笑って、相手が返事をする事で自分も笑って、笑顔がふえると思います。

## 《大人の部》

あいさつで 心がかよう 玉城っこ

・・・

藤

田

正

司

町民が全員仲良くなれるように！！

花には肥料（こえ）を人には声を元気よく！





# 健康しあわせ委員会賞

## 《小学生の部》

あいさつで みんなの心 すつきりと . . . 下外城田小学校五年 湯浅由香子

私はあいさつをしたら、スッキリするよってという思いをこめてこの標語を作りました。

## 《中学生の部》

あいさつを しっかりとして 元気100% . . . 玉城中学校一年 小林育樹

あいさつをしたら元気がでるのでこれにした。

## 《大人の部》

あいさつは 大きな声に 笑顔を添えて . . . 喜早功

大きな声を出すことは健康に良い。健康だと自然に笑顔が出る。一日の始まり朝のあいさつは大きな声でスカーッとさわやかに！そんな思いで作りました。



令和2年度 第19回

玉城町社会福祉大会

「福祉の作文」審査委員

(敬称略)

玉城町長

玉城町社会福祉協議会

会長 辻村 修一

玉城町教育委員会

教育長 中西 章

玉城町校長会 (田丸小学校)

代表 松田 照美

玉城町保健福祉課

課長 奥野 良子

玉城町社会福祉協議会

事務局長 西野 公啓